

世界のグローバル化に伴い、物、人、そして知識交流が日常茶飯事になりました。それに対応してドイツ国内の職業教育学または産業教育学も変わってきています。

一方でドイツ国外における若者の職業能力開発に対する認知がますます重要性を増し、他方でドイツ国内における職業訓練に対する対外の関心は常に深まっています。

我々の見解では、このような傾向において、鵜呑みにしたトレーニング方法を統一したり職業教育システムを異国間の架け橋と位置づけるよりも、以下の主軸となる3つの観点に焦点を合わせるべきと考えます。

1. 他
国の職業教育を詳しく研究し理解することで、「今実践している成功例」として他国で成功している方法と体系を位置づけてみると、それをとうして、もし必要な場合その他国の良いやり方を借用して、自国の職業教育を最適化することができます。
2. 国
外の現状を認知することは自国の状況にも注意を払うことに繋がり、他国の事例から場合によっては誤政策の繰返しを阻止することが可能となります。
3. 学術的な認識関心を背景とすることにより、職業教育に関する比較調査の調査結果、及び今後の方法開発に大きな意味をもたらします。

G.R.E.A.T.の

使命と提案が比較研究、開発とインプレメンテーションの案内、及びコンサルティングまたは教習サービスの分野であるということがあります。この際原則として世界中のあらゆる組織との協力が特に重要となり、この中でもヨーロッパ諸国、インドを含めたアジア諸国、及び北米との協力が不可欠です。

職業教育に関する国際的な比較研究の分野以外にも、他の3の分野でサービスを提供しています。



職業訓練に関する共同研究、及び国際的な比較調査の範囲内において、学校関係そして企業関係の教育場所、教材、カリキュラム、及び事例研究、そしてロールプレイングのような教育構成を得ることがもっとも重要であると考えられています。

この分野においてG.R.E.A.T.は商業的な管理部門を設けるだけでなく、工業技術の分野においても工業技術に関する職業教育の研究施設である[FBH](#)と協力しています。

コンサルティング・考課

G.R.E.A.T.は国内外の私立・公立の機関や団体の針路相談課や考課との提携により様々なノウハウの提供を可能にすることも重要な課題であると考えております。

G.R.E.A.T.は、企業または学校等の個別のトレーニングコースの実施補助から政治における職業教育の革新までの幅広い分野において、職業教育に関するプランニング、実施そして管理まで一括して専門的なコンサルティングを提供いたします。

教習

職業的分野における教育、そして資格認定過程に関する学習成果は、特に教訓品質に左右され、すなわち教職員や訓練者のレベルが非常に重要となります。そのため、G.R.E.A.T.は世界中で個々に最適な構想及びトレーニングを多様な言語（ドイツ語、英語、フランス語、中国語、日本語等）で提供しております。私たちは、特に商業職業部門に、そして[FBH（工業技術に関する職業教育の研究施設）](#)との連携で、工業技術分野にも重点を置いております。

職業教育に関する国

際的な比較研究の分野で様々な研究プロジェクトを推進し、各国の詳細な動向分析レポートと特定の比較を作ります。さらに、比較研究の方法も改善します。もちろん、世界レベルの出版物（[参考文献参照せよ](#)）も編集して、世界中の研究者との協力研究もしています。

進行中プロジェクトの概要

FiFOBI

Developing business competencies in school

学校教育における職業能力開発

Fit for business: Developing Business Competencies in School (Fifobi)

[欧州連合](#)助成

期間：2008年～2010年

EU諸国において、中等教育修了者の経済関連知識の不足、自発的な行動や就業適正の欠如が問題となっています。「Fifobi」

プロジェクトでは、現在様々なEU諸国で実践されている経済教育の形式と内容を中学校教育の最後の二年間に焦点をあてて考察します。参加EU諸国間の比較分析によって、各国家の学校教育システムにおける長所と短所を明らかにし、最終的には最も優れた実践的アプローチの公開を目指します。これは、他の諸国での学校改革の見本となり、さらには生徒達の生涯教育の基礎としても役立ちます。

研究プロジェクト「Fifobi」は、EUにおける生涯教育プログラムの一環として、オーストリア、ポーランド、ポルトガル、スコットランド、ハンガリー、そしてドイツ国内の7機関のプロジェクトパートナーとの共同研究として、ケルン大学経済・社会教育学部のリーダーシップの下で遂行されています。

[当プロジェクトとプロジェクト・パートナーに関する詳細](#)



ドイツと中国における就業前教育の比較：カリキュラムとその内容

Pre-Vocational Education in Germany and China: A Comparison of Curriculum and Its Implication

[DAAD助成](#)

期間：2007年～2010年

本プロジェクトでは、ドイツと中国における義務教育最後の二年間の就業前教育の現状を調査します。就業前教育は、ドイツ語で「Arbeitslehre」「Technikunterricht」「Wirtschaftskunde」などと様々に呼ばれてきたが、国際的な背景の中で「pre-vocational education」

という用語ができました。しかし、このテーマにおいてはまだ国際的な比較研究が少なくありません。本プロジェクトは、部分的ではあるがこの研究の隙間を埋めるものであります。ドイツとの比較研究パートナーとして、最も重要な新興産業国家のひとつである中国を選びました。中国は、ドイツとの集約的な貿易関係を築いており、さらに現在職業教育システムを強化しています。

カリキュラム分析によって、形式的なレベルでのドイツ・中国両国の就業前教育の状況が上がります。

各国というの解釈は原理をもとにして付き文化的、労働市場の特称な観点顧慮します。

第二段階では、両国における定量的社会調査によってカリキュラムの実際の遂行を調査、さらに選出された地域の教員へのインタビューを行います。

調査結果の活用とカリキュラムの実態の比較によって、第三段階における国際比較の基礎資料が揃います。教育学の国際的比較を試験的に行うことによって、他国の経験を反映させる可能性が開けます。

職業・特殊教育から企業内トレーニングへのカリキュラム移行に関する国際比較研究

日本学術振興会助成



スコットランド、日本、イタリアの各国論考

遂行期間:2007年～2011年

スコットランド、日本、イタリアの各国論考は、社会経済学の初歩、そしてそれぞれ国の教育政策を伝えます。調査報告では、教育システムは職業教育の観点から研究されます。その際、国家的、経済的、社会的、教育政策的構造の概略及び職業教育の歴史的発展を確認します。

国際職業教育ハンドブックのための各国調査報告が作成されています。1995年から発行されているこの刊行物は、ドイツ語圏における比較職業教育研究の実践的な基礎文献となっています。職業教育及び教育システムを集中的に取り上げた各国調査報告となっており、調査対象は42カ国に及びます。

完成したプロジェクトと研究活動

Comprehensive Research on International Comparison of Curriculum Transition from Vocational and Professional Education to In-Company Training

助成: **Japan Society for the Promotion of Science**

Japan Society of the Promotion of Science

期間：2005年～2010年

本プロジェクトは、名古屋大学寺田盛紀教授の主導の下、厳選した西工業国(アメリカ、英国、ドイツなど)及びアジア諸国(日本、韓国、台湾)の、教育と雇用との間にある問題点に取り組みます。

様々なレベルにおける分析をベースに、国独自の就職の特殊性を調査します。カリキュラム分析の他に、関連する職業訓練、制度的定着、教育政策による支援システム及び企業の活動を分析します。分析結果は、続いてそれぞれの国や文化の背景を評価されます。

引率



Prof. Dr. Matthias Pilz

Phone: +49 (0)221 470-2454

Email: [matthias.pilz\(at\)uni-koeln.de](mailto:matthias.pilz@uni-koeln.de)

ヨーロッパ連合



Susanne Berger, M.A.

Phone: +49 (0)221 470-2253

Email: [susanne.berger\(at\)uni-koeln.de](mailto:susanne.berger@uni-koeln.de)

ヨーロッパ連合+インド



Dipl.-Kff. Sarah Pierenkemper

Phone: (0221) 470-2506

Email: sarah.pierenkemper@uni-koeln.de

ヨーロッパ連合



Sabrina Theis, M.Sc.

Phone: +49 (0)221 470-5899

Email: Sabrina.Theis@uni-koeln.de

中国



Junmin Li

Phone: (0221) 470-2506

E-Mail: jli0@smail.uni-koeln.de

インド



Dr. Balasubramanian Ramani

Phone: +49 (0)221 470-2506

Email: [balasubramanian.ramani\(at\)uni-koeln.de](mailto:balasubramanian.ramani@uni-koeln.de)

インド



Muthuveeran Ramasamy

Phone: (0221) 470-1879

E-Mail: ramasamm@smail.uni-koeln.de